

一般質問

今後の町財政を、具体的な考えを問う！

小田 貞利 議員

問 合併により、約2億程度の人的経費の削減は出来たが、「負担はかるく、サービスは高く」の方針の元、きびしい町財政となっている。今後も公共下水、農業集落廃水等の整備が進むにつれ、維持管理費、起債の償還等、町負担経費の増加が見込まれるが、今後の町の方針は。

答 下水道事業を例にすると、起債の償還額は今後も増高することが予想され、維持管理経費は使用料を現状維持とすると、料金収入と維持管理費との差はますます大きくなり、一般会計からの繰り入れ増は余儀なくされる。三位一体の改革など、町の財政状況は非常に厳しく、しっかりと経費節減等の節約に努めると共に、受益者に対する適正な負担を念頭



に使用料の見直しなど、歳入確保の方策も検討していかなければならないと考えている。一例として、庁舎などの行政財産については、制限はあるものの、可能な限り空施設の

貸し出し等による有効利用、あるいは処分可能な町有財産については、売却を検討し、財源確保に努めたい。



大泊最終処分工事現場

屋代川の早期浚渫を！！

富田 安英 議員

問 昨年、今年と続き集中豪雨時に、屋代川に多量の土砂が堆積されました。ここ最近、取り除きが行われていないので、橋や土手の崩壊が危惧されます。町としての対応を問う。

答 (町長) 屋代川に多量の土砂が堆積して、橋や土手に危険を及ぼす恐れがあるということについては、早急に調査対応していただくよう大島土木事務所に要望したいと考える。

問 県の維持管理と実績についてはどうか。

答 (産業建設部長) 県管理の河川維持管理予算は、毎年一定額の予算が確保されているわけではなく、必要に応じてその都度、県本課と協議し実施している。

○平成15年度では：ダムの流入口及び直下流域の浚渫（しゅんせつ）。



○平成17年度では：一本松川の床版及び屋代川下流域の鉄扉補修がそれぞれ実施された。

問 今後の対応は。

答 県当局は、屋代川流域の7月の豪雨及び台風の影響について、河川浚渫は計画規模になっていないと判断をしている。しかしながら、地域から要望があることについては、さらに県土木に要望する。



屋代川